

郷土博 通信

No.15

2020 春



聖徳太子尊像（解説 8 頁）



CONTENTS

- 聖徳太子尊像 ————— 1
- 展示室及び展示資料の紹介 — 2~4
- 重要文化財
久米通賢関係資料の保存修理 — 5~7
- 聖徳太子尊像について ————— 8
- INFORMATION ————— 8

第1展示室

日本の古代の貨幣と渡来銭

これまで、日本の古代の貨幣については、律令国家のもと、和銅元(708)年に「和同開珎」が発行され①、これを一番目として、以後250年の間に12種類の銅銭が発行されて、それらを「皇朝十二銭」と呼んでその歴史を理解してきました。ところがここ20年の間の発掘調査によって、日本の貨幣史の定説は変化し、現在では「無文銀銭」、「富本銭」、「和同開珎」の順に古いと考えられています。

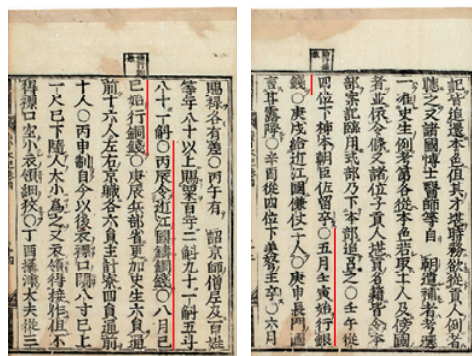
和同開珎などの皇朝十二銭が通貨として使われたのは、8世紀から10世紀にかけて、大和・河内・和泉・摂津・山城の畿内と近江付近までの地域で、その後は平安京域内に流通範囲が限定されたと考えられていて、日本全域で流通していたわけではありませんでした。当館が所蔵する「和同開珎・万年通宝・神功開宝」②は、坂出市府中町の西福寺遺跡から出土したもので、火葬された骨と共に須恵器の壺に納められた副葬品でした。

皇朝十二銭の発行が途絶えたあと、江戸時代を迎えるまで、その時々政府(朝廷や幕府)が正式な貨幣を発行することはありませんでした。中世に入って、日本と宋や明との貿易がさかんになり、中国で造られた何十種類もの銅銭が輸入され、日本国内で流通する貨幣(渡来銭)③として、重要な役割を果たしていききました。

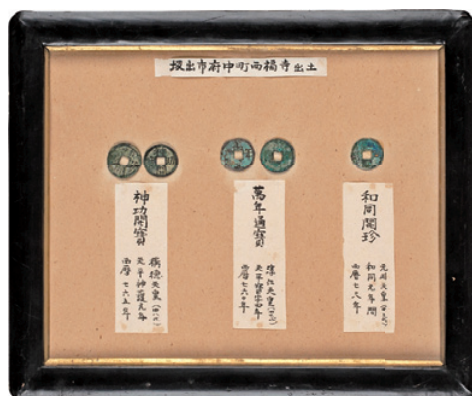
明銭の「永楽通宝」は、明の永楽6(1408)年から製造された銅銭で、のちに織田信長が織田家の旗印のデザインとして用いています。なぜ「永楽通宝」を採用したのか、その理由は定かではありませんが、当時の代表的な渡来銭の絵が、信長の経済力をバックにして天下統一に向けたイメージの向上をねらったのではないかと思います。

今回の展示では、古代から江戸時代を迎えるまでの期間の日本の貨幣について、当館の所蔵資料などから概観します。

(齊藤 祐司)



▲①『続日本紀』(和銅元年の記載)



▲②坂出市府中町西福寺遺跡の出土銭
「和同開珎、万年通宝、神功開宝」



▲③渡来銭
(『明治新撰泉譜(第一集)』明治15(1882)年刊)

第2展示室

久米通賢のアイデアノート

江戸幕府が諸外国との交流や貿易を制限する政策をとり続けるなかで、通賢が活躍していた19世紀前半は、諸外国の船が日本近海に出現し、接触を計てきました。それに危機感を覚えた通賢はさまざまな武器開発を行い、銃などを製作しています。さらに外国からのアプローチは船であったことから、戦船や海上戦にも深い関心を示し、『戦船作積覚』（戦艦の製作や装備、戦闘方法などを述べたもの）などの資料を残しました。

通賢の幅広い知識はどこから得られたのでしょうか。兵器に関しては、通賢の著述にしばしばその名が記されていることから、明代の兵法書である『武備志』（1641年刊）からその着想を得ていたことがわかっています。武器等の図が描かれた「兵器図」と呼ばれている資料がいくつか伝来していますが、その中にも『武備志』の図を写したと思われるものが含まれています。

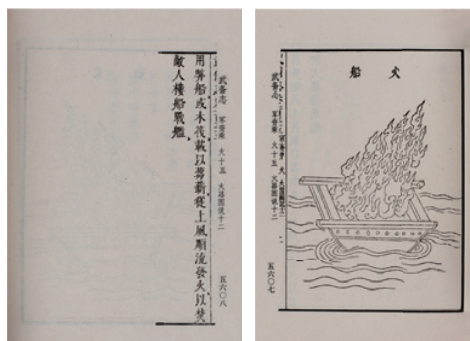
①は通賢が記した船戦に関連した兵器図です。左半分の記事には「火船」とタイトルがつけられており、『武備志』にも同じ名称の兵器②が掲載されていることから、参考にして書かれたことがわかります。また『武備志』の解説には「火がついた船を風上から流し敵船を焼く」とありますが、①の資料には「入れ子にして重ねれば場所を取らない、敵船を焼く武器にもなるし船上で使用できる松明ともなる、図のように箱の上部にむしろ箆のようなものを取り付けば海中で波を防ぐことができる」というように、使い方や仕様に独自の工夫が加えられています。この「火船」は、通賢の著作『武備機械くわびきかい 鉤玄こうげん 下巻』に「船明松」と改称して掲載されています③。

このように既にあるものを調査研究し、何度もアイデアを練り直して工夫する通賢の姿勢は、地平儀など測量器具の製作や、坂出塩田開発に関連する資料などからも読み取ることができます。

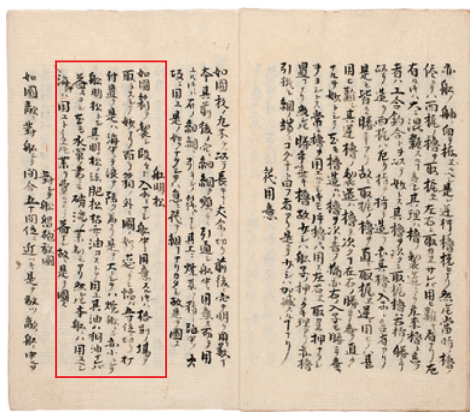
(宮武 尚美)



▲①兵器図
火桶船上利器・関舟陰面ノ図・火船



▲②『武備志』「火船」
（『中国兵書集成』1989年）



▲③『武備機械鉤玄 下巻』

第3展示室

さまざまな学びのかたち

江戸時代の中頃、8代将軍吉宗がキリスト教に関係の無い漢訳洋書の輸入を認めたことがきっかけとなり、国内でも医学、天文暦学、数学、兵学、科学、外国語など西洋の新しい知識を学ぶことができるようになりました。それは江戸や京・大阪、長崎などの都市部に限らず全国的な広がりを見せ、また讃岐においてもそれらを修めようとする人々がいたことは、現存する数多くの資料から知ることができます。

合田 求 吾(1723-1773)は豊田郡和田浜村(観音寺市)の医者の子に生まれ、京や長崎で学び各地の医者とも交流して医学を究めんとしました。長崎ではオランダ語通詞(通訳)で蘭方医でもある吉雄耕牛とその弟 蘆風から西洋の内科を学び、その講義録を『紅毛医言』①としてまとめました。この書は未刊のため世に広まることは無かったのですが、『解体新書』発刊の12年前に書かれたもので、わが国初の西洋内科書であるとの評価を受けています。

合葉文山(1797-1857)は信州上田(長野県上田市)に生まれ、江戸で谷文 晁(1763-1841)に、豊後では田能村竹田(1777-1835)に師事して画業を学び、後に琴平に定住し生涯を終えました。諸国を巡る中で蝶と出会った文山はその美しさに魅了され、一匹一匹を紙に包んだ標本をつくりました。現在はガラス器に納められ、尽誠学園で大切に保存されています②。この標本は日本最古のものとされ、昆虫学者からも高い評価を得ました。金刀比羅宮奥書院 菖蒲の間の「群蝶図」は、文山が採集した蝶をもとに、岸岱(1782-1865)が描いたとされています。

伊藤南岳(1784-1844)は大内郡南野村(東かがわ市)に生まれました。これまで久米通賢の親友として取り上げられることが多かったのですが、語学・数学・天文暦学・医学・儒学・国学・和歌などあらゆる学問を修めようとした人物です。「重訂属文錦囊」(オランダ語文法書)③、「矮立円術理」(数学)、「血論」(医学)、「和歌灌頂 次第秘密抄」(歌学書)等、南岳が書き写した学問書のジャンルは多岐にわたり、幅広い知識を求め続けていたことがわかります。

今回の展示では、讃岐において200年前に展開していた、さまざまな学びのかたちをご紹介します。

(宮武 尚美)



▲①『紅毛医言』



▲②蝶標本(尽誠学園蔵)



▲③『重訂属文錦囊』

「重要文化財 久米通賢関係資料の保存修理 — 装^{そうこう}潢修理とは —

第10回公開講座から
宇都宮 正紀
(株式会社 修美 代表取締役)

公益財団法人 鎌田共済会蔵(保管:鎌田共済会郷土博物館)の重要文化財「久米通賢関係資料」1,061点は、江戸時代後期の讃岐国大内郡馬宿に生まれ、のちに高松藩へ出仕した久米通賢(1780～1841)の科学的知識を活かした事績に関するもので、古文書類は文書類、冊子類、絵図地図類、卷子などと多岐にわたる形態で構成されています。

そのうち、平成27年度から29年度にかけて83点の修理を行いました。また、令和元年度から2ヶ年にかけて56点の修理を行っています。

古文書の修理において、古文書の料紙の欠失した部分には補修を施す修理工程があります。

その補修には、基本的に次の3通りの方法があります。

①全て手作業にて行う「手繕^{てつくろい}」(写真1)

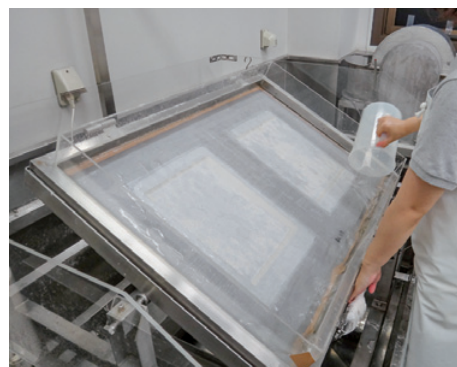
欠失部分の周囲に糊を塗布し、補修紙を欠失部分に裏面から貼り、糊しろ部分と本紙との重なりを極力少なくするように段差を削り取って整形する方法です。



▲写真1 手繕

②繊維を欠失部に直接形成する「漉^す嵌^め方式」(写真2)

漉嵌は写真2のようにメッシュ状の台上(サクシオンテーブル)に載せた本紙に、繊維を分散した水(料紙)を注いで吸引することで、欠失部分に料紙が集まりメッシュを通して、水だけが取り除れ、繊維が残る状態にする補填方法です。つまり、欠失部分に紙漉きをして補修を行う方法であり、この方法だと5分で欠失部が埋まります。



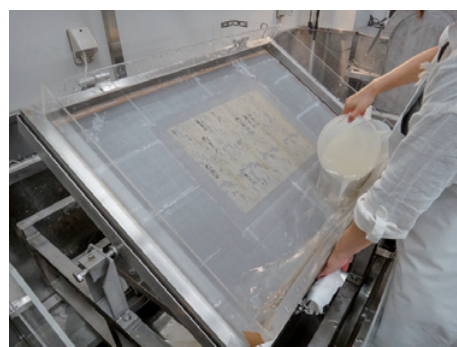
▲写真2 漉嵌方式

しかし、多量の水を使用することなどから、どんな本紙にも使用できる訳ではありません。

③デジタル技術を応用した「DIIPS 方式」(写真3)

DIIPS方式(Digital Image Infill Paper System)はデジタル技術を応用した補修紙作製の方法です。

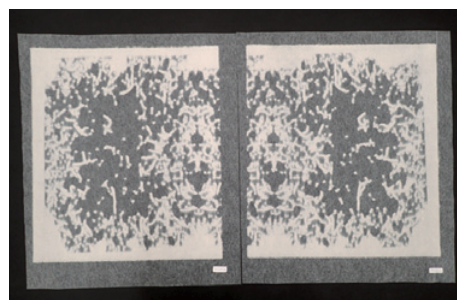
補修方法は、漉嵌のように本紙を水に浸けることなく、本紙の欠損部分を撮影したデジタルデータを基に紙を漉くための本紙代替シートを作製し、そのシートを用いて欠損の形通りに本紙と同質の補修紙を作製し(写真3)、それを貼り付ける方法です。



▲写真3 DIIPS 方式

このような方法を用いて、様々な料紙に対応できる補修紙を作製します。

今回の修理では、主に①「手繕」の補修方法にて、修理を行いました。



▲写真4 写真3で作製した補修紙

【冊子の修理】

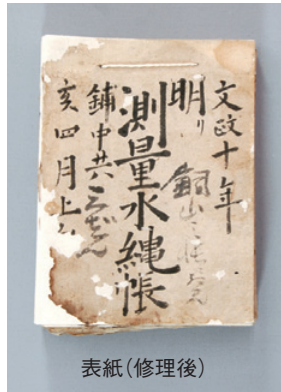
修理前の状況としては、主に虫損などによる著しい本紙の欠失、シミ、汚れの付着、焼損による炭化、料紙の脆弱化などの損傷が挙げられます。

このような損傷状態を踏まえて、今回の修理では虫損や経年による劣化等で生じた料紙の欠失箇所に料紙と同質の補修紙による補修を行い、本紙を安定した状態にすることを基本方針としました。

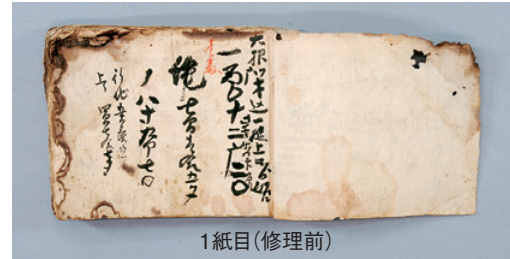
資料名：明り測量水縄帳（銅山測量）



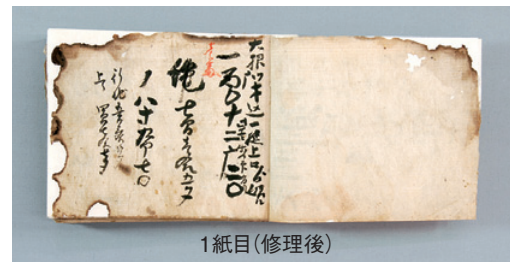
表紙(修理前)



表紙(修理後)



1紙目(修理前)



1紙目(修理後)

各ページの端に焼け跡があり、炭化して著しく傷んでいました。傷みやすい角部分でもあるため、補修し、補強しました。

〈主な修理工程〉



①調査、写真撮影



②解体



③ドライクリーニング



④ウェットクリーニング



⑤補修紙作製



⑥補修(補紙): 手繕



⑦付箋などの貼り戻し



⑧仕立て(綴じ直し)

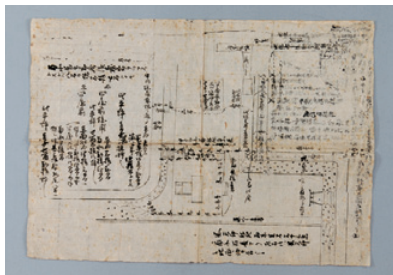


⑨修理後の記録(採寸)

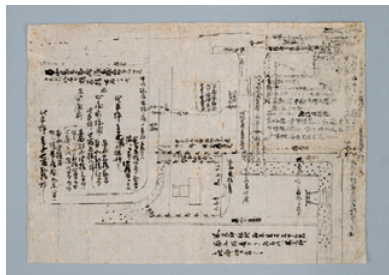
【絵図・地図類の修理】

修理前の状況としては、主に虫損などによる本紙の欠失、継ぎ部分の糊離れが生じている、茶色のシミが著しく発生しているなどの損傷が挙げられます。修理によって本紙の欠失、糊離れ、シミなどの損傷が軽減されました。

資料名：坂出塩田設計図



修理前



修理後

シミがあり、折れ目部分が傷んでいたため、汚れやシミを取り除き、折れ目をなくしました。

〈主な修理工程〉



①旧肌裏紙の除去



②補修(補紙):手縫



③肌裏打

【著述稿本類の修理】

修理前の状況としては、主に本紙全体に折れが生じている、茶色のシミが著しく発生、継ぎ部分の糊離れなどの損傷が挙げられます。修理によってシミは軽減され、本紙の「折れ」や継ぎ部分の「糊離れ」は解消されました。

資料名：戦船作積覚



修理前



修理後

シミが目立ち、表装が傷んでいたため、汚れやシミをできるだけ除き、表装し直しました。

〈主な修理工程〉



①折れ伏せ



②本紙の継ぎ



③肌裏打

文化財の保存修理は定期的に行われることによって、伝世してきました。今回の久米通賢関係資料の修理に携われたことを誇りに思っています。

聖徳太子と聞いてまず思い浮かべるのは、昔の1万円札の肖像画でしょうか。太子は日本の古代史上著名な人物で、冠位十二階や十七条憲法を定めるなど、天皇を中心とした中央集権国家の確立を目指す傍ら、仏教を篤く保護しました。厩の前で生まれたという出生説や、10人の訴えを同時に聞き分けたというエピソードなど多くの伝説も残っています。死後は早くから聖人化され信仰の対象となるとともに、現代に至るまで数多くの尊像が造られています。本像もその一つです。

作者は新田藤太郎です。新田は明治21(1888)年、三野郡積浦(三豊市詫間町積)に生まれました。高松工芸学校(高松工芸高等学校)卒業後、東京美術学校(東京芸術大学美術部)塑像科に入学します。在学中の明治42(1909)年、文部省美術展覧会に初入選しました。その後入選を重ね、昭和2(1927)年に無鑑査となります。無鑑査とは過去の実績をもとに主催者の審査・鑑査なしで出品が可能と認められることで、5年後には審査員になりました。戦後は香川に戻り制作を続けるとともに、香川県美術展の創立など、郷土の文化・芸術の向上に尽力し、昭和55(1980)年、92歳で亡くなります。高松中央公園には玉櫛象谷像や菊地寛像など新田の作品があり、いつでも鑑賞することができます。

聖徳太子尊像について、新田は当共済会の刊行物の中で次のように語っています。

「童心の貴さを想い、太子三才の像を制作し、太子の金言「和を以て貴しとす」を合掌の印で表現しました。(中略)用材は、三豊郡荘内半島の突端に鎮座する三崎神社境内の神木で、千年以上経たものといわれる真柏の枝を戴いていたので、太子像にふさわしいと思い用いました。」(新田藤太郎「聖徳太子尊像の彫刻」『郷土文化』第8号 1955年)

9月30日までロビーに展示しています。幼いながらも凛とした顔やお姿を心ゆくまで鑑賞ください。

(宮武 尚美)

INFORMATION

■ 鋳造体験講座「古代鏡を作ってみよう!!」

2020年7月18日(土)

・午前の部 10:00~11:30

・午後の部 13:30~15:00

対象:小学生以上(小学4年生以下は保護者同伴)

会場:鎌田共済会郷土博物館2階講堂

講師:高松市埋蔵文化財センター職員

●溶かした金属を型に流し込み、固まったら取り出し磨いて仕上げる作業を体験します。

電話またはFAXでお申込み下さい。

電話:0877-46-2275 FAX:0877-45-0035

【申込7月1日(水)から、各回10名、参加料500円】

鎌田共済会郷土博物館



Access

高松から…快速マリンライナーで約15分
岡山から…快速マリンライナーで約40分
JR予讃線坂出駅から徒歩5分
※駐車場あり

開館時間:午前9時30分~午後4時30分(入館は4時まで)

休館日:月曜日/祝日

夏季特別(8月13日~15日)

年末年始(12月29日~1月4日)

入館料:無料



像高:31.5cm
昭和30(1955)年制作